

令和3年度 事業報告（案）

I. 総括

2015年に第3回国連防災世界会議で仙台防災枠組が策定されて以来、世界では防災の機運がこれまでになく高まっていますが、未だに相次ぐ大災害の発生を食い止めることには成功していません。地球温暖化に伴う気候変動の影響はすでに顕在化し、今後更に災害リスクが高まる恐れもある中、具体的な解決策の実施は、もはや待ったなしの状況となってきました。

一般財団法人 世界防災フォーラムは、東日本大震災や世界の大災害からの経験や教訓をもとに、産官学民での防災のソリューションの追求や国際的な共有を目標とし活動してまいりました。

しかしながら、令和3年度もコロナパンデミックにより、計画していた活動が大きく制限された1年となり、第3回 世界防災フォーラム(2021年予定)の開催が令和4年度へ延期することになりました。その中で、日本から世界に情報発信するイベント「World Bosai Walk TOHOKU+10(WBW)」を実施いたしました。

これまでの社会生活の常識や行動規範はコロナパンデミックで一変し、発災時の避難や復旧などにおいても、その影響を考慮することは必須となりました。私たち財団のメンバーの働き方も行動が制限され、在宅勤務・オンラインミーティングが主体となりました。

コロナが長期化する中、今後の活動はウィズコロナを念頭に実施することが必要となるのかもしれませんが、「World Bosai Walk TOHOKU+10」も、アウトドアでの活動であること、情報発信にICTを活用することから実施に踏み切りました。これからはコロナの状況を踏まえながら、活動を拡大していきたいと考えております。。

II. 個別事業

1. 公益事業

(1) 情報発信事業

(World Bosai Walk TOHOKU+10の実施)

福島いわき市から青森県八戸市まで徒歩で踏破し、その土地で復興に取り組む人々、災害の記憶を後世に伝えようとしている方々など、「人」と「ビルドバックベター」に焦点をあて、その様子を世界に発信していく「World Bosai Walk TOHOKU+10」を実施しました。

(第3回世界防災フォーラムの準備)

2023年3月10日～13日開催での開催を決定しました。会場は前回と同じく国際センターと東北大学萩ホールを予約しました。第二回の議長サマリーから、今回は、1)民間セクターおよび若年層により積極的に参画してもらうこと。2)いくつかテーマを決めて、特に統合的・学際的なアプローチに関する企画度の高いセッションを行い、参加者の増加と交流を促すこと、の2点を重視して実施します。また、コロナの状況を踏まえ、ハイブリッド開催の採用やWEBページの充実などを検討しています。

(世界防災関連博物館のネットワーク構築事業)

災害の経験を忘れずに記録し、次世代につないでいくための活動の1つとして世界中の防災関連博物館のソフトなネットワークを構築することを目的とした事業です。海外に向けた活動は実施できませんでしたが、いくつかの東北地方の沿岸地域の災害・復興関連のミュージアムにおいて、趣旨や目的の説明を実施し、多くの施設からご賛同いただきました。

(ぼうさいこくたい 2021 への参加)

11/6～7 に岩手県釜石市で行われた「ぼうさいこくたい 2021」に参加し、財団及びWBWの広報活動を実施しました。

(仙台防災未来フォーラム 2022 への参加)

3/5 に仙台国際センターで開催された「仙台防災未来フォーラム 2022」においてもブースを出展し、広報活動を実施しました。

また、第3回世界防災フォーラム／防災ダボス会議@2023 開催についての発表を行いました。

(2) 調査研究事業

(災害リスクの把握・分析及び報告書の作成)

仙台防災枠組のグローバルターゲット達成のため、各国が整備する災害被害統計とリンクした東北大学災害科学国際研究所に設置された災害統計グローバルセンターを支援する活動です。コロナパンデミックの影響により、大きな進捗はありませんでした。

2. 収益事業

令和3年度は名取市観光物産協会様より「東北レジリエンス・ツーリズム創生事業(災害・復興の知を学ぶ教育・研修旅行)」を受託し、私たちの知見や情報を提供しました。

以上